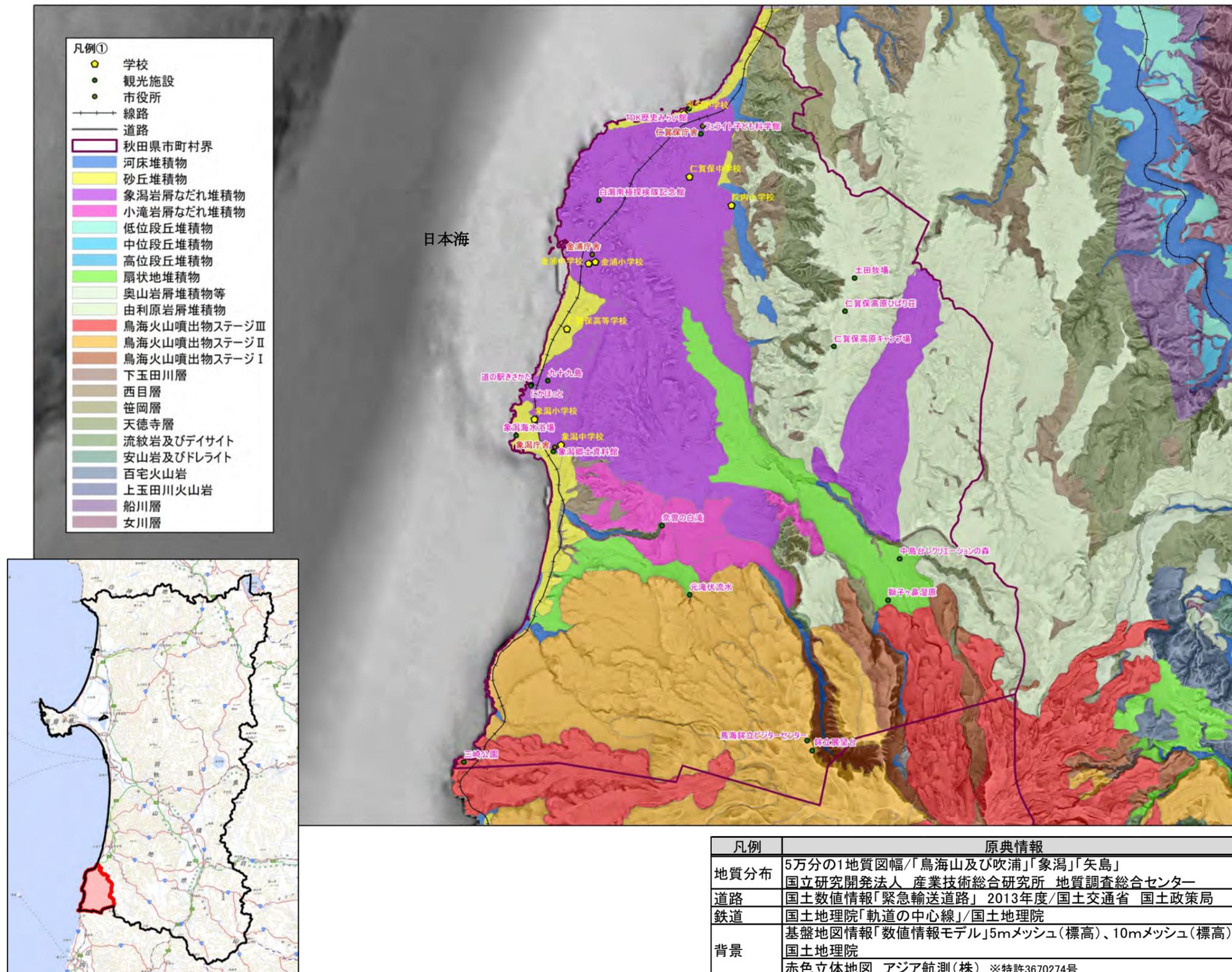


図 A-2 : にかほ市の地質



- ・にかほ市の地質の基盤は新第三紀中新世の堆積岩である女川層や鮮新世から第四紀更新世にかけての船川層などを基盤としています。
- ・北西部に位置する仁賀保高原では、南側の鳥海山から流れ下った、由利原岩層なだれ堆積物や象潟岩層なだれ堆積物が基盤を覆って分布しています。
- ・今から約 2500 年前(紀元前 466 年)に発生した象潟岩層なだれは、主に白雪川の谷を北西方向に流れ下り、南は象潟駅の東から、北は仁賀保駅周辺まで広く堆積しました。
- ・仁賀保高原に分布する象潟岩層なだれ堆積物は、東鳥海馬蹄形カルデラから北側に流れ下った岩層なだれの一部分が、手前を横切る白雪川の谷を乗り越えて高原の上に分布したものです。
- ・にかほ市の南に位置する鳥海山は標高 2,236mの活火山で、別名「出羽富士」、「庄内富士」とも呼ばれています。
- ・鳥海火山は約 50 万年前から活動を始め、1974 年の噴火まで有史以来活動を続けています。
- ・新しい火山である鳥海山は浸食により白雪川や奈曾川などの河川を通じて土砂を流下させ、海まで運びます。海に運ばれた砂は、冬の季節風によって海岸から飛ばされて、海岸後背に砂丘を形成しています。

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2JHs132」

△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。